

# 平成30年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔歯学部口腔健康科学科〕

プログラムの名称（和文）	口腔保健学プログラム
（英文）	Program for Oral Health Science
1. 取得できる学位 学士（口腔健康科学）	
2. 概要 口腔健康科学科では、科学的根拠に基づき、歯学だけではなく医学，工学，看護学などの分野との連携を図り，口腔健康科学の分野での研究者，教育者及び高度先進的な医療人を育成することを目的として，2つのプログラム（口腔保健学プログラム，口腔工学プログラム）を提供しています。そのうち，口腔保健学プログラムは高度先進的な口腔保健医療人の育成，歯科衛生士職務分野の研究者，教育者の育成を行い，また，希望する者には養護教諭一種免許状を取得できるようにして，学校保健で活躍できる歯科医療人の育成を図ります。	
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 口腔保健学プログラムでは，口腔保健と学校保健の分野で活躍できる以下の人材を養成します。 ・高度先進的な口腔保健医療人。 ・歯科衛生士職務分野の研究者，教育者。 ・養護教諭一種免許を取得し，学校保健で活躍できる歯科医療人。 そのため，本プログラムでは，以下の能力を身につけ，教育課程の定める単位を修得した者に学士（口腔健康科学）の学位を授与します。  （1）歯科衛生士として必要な基礎的教養，基礎歯科医学，臨床歯科医学，歯科衛生士専門科目，隣接医学について総合的知識と技能を統合し，活用できます。 （2）患者，スタッフと良好な対人関係を築いて患者中心のチーム歯科医療が行えます。 （3）将来，口腔保健学の研究者，歯科衛生士の教育あるいは臨床における指導的役割を担うため，最先端の知識，教育能力，情報収集能力，問題解決能力，研究能力，倫理的思考力，生涯学習能力を修得し，活用できます。 （4）歯科専門知識を有する養護教諭として学校保健の場で必要とする知識，技能，態度を修得します。	
4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 口腔保健学プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を学生が達成できるように，以下の方針の下に教育課程を編成し，実践します。 （1）1年次には，他学部学生とともに教養教育を受け，幅広い教養を身につけ，歯科医療人となるための知的基盤を養います。また，「教養ゼミ」におけるPBL（Problem Based Learning）により，自己主導型学習を進めるための基本的な態度・技能・知識を修得します。さらに，専門の基礎知識を修得し，専門性を深めるための基盤を作ります。 （2）2～4年次には，専門科目を履修し，専門知識と技能を修得します。この専門科目には，口腔保健	

に関する科目はもちろんですが、生命科学などの基礎科学、歯科及び隣接医学などを含みます。

(3) 3年第3・4タームと4年次に「口腔保健衛生学臨床・臨地実習」を履修し、それまでに修得した専門知識と技能を臨床現場において実施します。それを通して、専門的歯科医療、一般的歯科医療、チーム医療などについての技能・知識を修得し、コミュニケーション能力、医療人としての規範意識とマナー、社会性、協調性、判断力を身につけます。

(4) 養護教諭コース選択者は、4年次に「養護実習」を履修し、学校保健活動を行う教育者として、教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力などを修得します。

(5) 3年第3・4タームと4年次には「卒業研究」を履修し、教員が行なっている最先端の研究に参加、あるいは口腔保健学に関する問題を自分で発見、研究、解決します。それを通じて情報収集能力、問題解決能力、研究能力、論理的思考力の修得を行います。

(6) バイオデンタル教育を通じて、科学的探究心に加え、多職種と連携可能な高度な学識と医療技術を養います。

なお、学修の成果は、各科目の成績評価と、各教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

## 5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）

口腔健康科学科では専攻ごとに入学試験を課しており、本プログラムは、歯学部口腔健康科学科口腔保健学専攻入学生のみを対象者として構築されています。

## 6. 取得可能な資格

(2) 得られる資格等

歯科衛生士国家試験受験資格（卒業と同時に得られる）

別に指定する科目を全て履修した場合、養護教諭一種免許状

## 7. 授業科目及び授業内容

別紙3を参照

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

## 8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）

○知識・理解

1. 人文科学や自然科学などの一般教養に関する知識・理解
2. 外国語と外国文化に関する知識・理解
3. 医の原則に関する知識・理解
4. 歯科医療従事者としての基本的な態度に関する知識・理解
5. 人の全身，歯，口腔の構造と機能に関する知識・理解
6. 疾病の成り立ち及び回復過程の促進に関する知識・理解
7. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する知識・理解
8. 歯科衛生士専門分野（歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導）に関する知識・理解
9. 学校保健に関する知識・理解

○能力・技能

1. 歯科医療従事者としてコミュニケーションを行う能力・技能及び態度
2. 情報を取捨選択し，論理的に整理し，発信する能力・技能
3. 歯科衛生士専門分野（歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導）を実践するために必要な能力と基本的技能
4. 口腔保健学に関する問題発見と研究の計画立案・推進・結果分析・結果発表を行う能力と基本的技能
5. 学校保健に携わるために必要な能力と基本的技能

○総合的な力

1. 歯科医療従事者として活動し，生涯にわたり学習する総合的な力
2. チーム歯科医療として歯科予防処置，歯科診療補助，歯科保健指導を行う基本としての総合的な力
3. 学校保健活動を行う基本としての総合的な力・技能及び態度

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

卒業論文を課す。

①位置づけ

教員が行っている最先端の研究に参加，あるいは口腔保健学に関する問題を自分で発見，研究，解決を行う。それを通じて情報収集能力，問題解決能力，研究能力，論理的思考力の修得を行う。

②配属方法・時期

3年次後期より配属する。配属方法は別に定めるが，学生の希望を重視する。

10. 責任体制

本プログラムの計画・実施は歯学部学部長室会議及び歯学部教授会が行う。評価検討・対処は，歯学部長が歯学部学部長室会議及び歯学部教授会に諮問し，答申内容を尊重して歯学部長が実行する。

## 履修表（歯学部教育課程表（別表第1））

## ＜口腔健康科学科 口腔保健学プログラム＞

区分	科目区分	要修得 単位数	授 業 科 目 等	単位数	履修区分	履修ターム (注1)			
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	2年次2ターム			
	基礎 大学 科目 教育	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	1ターム		
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	1ターム		
	領域科目		4	人文社会科学系から2科目4単位以上	1又は2	選択必修	1, 3ターム		
			2	全身の健康と口腔科学I	2	必修	2ターム		
			2	全身の健康と口腔科学II	2	必修	4ターム		
	共通科目	外国語科目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎I コミュニケーション基礎II	1 1	必修	集中講義等 集中講義等
				コミュニケーションI	2	コミュニケーションIA コミュニケーションIB	1 1	必修	1, 2ターム
			コミュニケーションII	2	コミュニケーションIIA コミュニケーションIIB	1 1	必修	3, 4ターム	
			コミュニケーションIII	2	コミュニケーションIII A コミュニケーションIII B コミュニケーションIII C	1 1 1	選択必修	2年次1, 3ターム	
					上記3科目から2科目				
			初修外国語 (ドイツ語, フランス語, 中国語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語Iから2科目 ベーシック外国語IIから2科目	1 1	選択必修	1, 2ターム 3, 4ターム	
			情報科目	2	情報活用基礎 情報活用演習	2 2	選択必修 (注3)	1ターム 3ターム	
				健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	1~4ターム
			基盤科目	2	医療従事者のための心理学	2	必修 (注4)	4ターム	
				2	初修生物学(注5)	2	選択必修	1ターム	
	細胞科学	2			3ターム				
	人間理解のための人体解剖学I	1			3ターム				
	人間理解のための人体解剖学II	1			4ターム				
	2	初修化学	2	必修	2ターム				
	計	36							

注1：年次の記載がない場合は1年次に履修すること。なお、単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するタームが異なる場合があるので、毎年発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習I・II・III」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位（8単位）に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項、「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：1年次前期開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合のみ、後期開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注4：「医療従事者のための心理学」の単位を修得できなかった場合のみ、「心理学概論A」又は「心理学概論B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な単位（2単位）に算入することできる。

注5：履修すべき科目がある場合は、歯学部において指定する。なお指定された科目以外を修得しても卒業に必要な単位に含めない。

注6：養護教諭の免許を取得しようとする者は、「養護教諭一種免許取得に必要な履修科目」を参照すること。



## 履修表(歯学部教育課程表(別表第2))

区分	科目区分	授業科目	最低修得単位数	学年・セメスター別履修単位数								備考			
				1		2		3		4					
				1	2	3	4	5	6	7	8				
専門教育科目	専門科目	看護学演習	1				1								
		基礎看護学臨床実習(養護教諭)	1							1					
		養護概説	2						2						
		健康相談	1							1					
		学校保健演習	2							2					
		小児科学	1						1						
		精神科学	1						1						
		精神保健学	1						1						
		◎ スポーツ歯科・顎関節症保健学	1							1					
		◎ 歯科臨床教育学	1								1				
		◎ 口腔保健衛生学臨床・臨地実習	20								5	9	6		
		◎ 口腔保健管理学臨床実習	5									1	4		
		◎ 卒業研究	3								1	1	1		
		バイオデンタル教育科目	◎ スタートアップコースワーク	1					1						
◎ 専門コースワーク	1								1						
◎ 実践専門英語演習	1								1						
合計			105	3	7	24	22	21	11	10	7	選択科目は除く。			

(注) ◎は必修科目を示す。

### 口腔保健学プログラム 卒業要件単位数 141単位以上

<b>教養教育科目</b> 平和科目 2単位 大学教育基礎科目 4単位 領域科目 8単位 共通科目 外国語科目 英語 8単位 初修外国語 4単位 情報科目 2単位 健康スポーツ科目 2単位 基盤科目 6単位	<b>専門教育科目</b> 専門基礎科目 33単位以上 専門科目 69単位以上 バイオデンタル教育科目 3単位以上
教養教育科目小計 36単位以上	専門教育科目小計 105単位以上

口腔保健学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 人文科学や自然科学などの一般教養に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(2) 外国語と外国文化に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(3) 医の原則に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(4) 歯科医療従事者としての基本的な態度に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(5) 人の全身、歯、口腔の構造と機能に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(6) 疾病の成り立ち及び回復過程の促進に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(7) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(8) 歯科衛生士専門分野(歯科予防処置, 歯科診療補助, 歯科保健指導)に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
	(9) 学校保健に関する知識・理解	各科目の内容を全て正確に説明でき、さらに学びを深めて展開できる	各科目の内容を全て正確に説明できる	各科目の内容のほとんどを説明できる
能力・技能	(1) 歯科医療従事者としてコミュニケーションを行う能力・技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(2) 情報を取捨選択し、論理的に整理し、発信する能力・技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(3) 歯科衛生士専門分野(歯科予防処置, 歯科診療補助, 歯科保健指導)を実践するために必要な能力と基本的技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(4) 口腔保健学に関する問題発見と研究の計画立案・推進・結果分析・結果発表を行う能力と基本的技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
	(5) 学校保健に携わるために必要な知的能力と基本的技能	実習等において、基礎的知識を予習した上で積極的かつ探求的態度で臨み、学びを深めて展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察し、さらに今後の課題についても客観的に考えることができる。	実習等において、態度が良好で学んだことを原理原則に基づいて応用することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に評価考察することができる。	実習等において、態度が良好で、学んだことを原理原則に基づいて、展開することができる。レポートなどの作成においては、事象を客観的に記述することができる。
総合的な力	(1) 歯科医療従事者として活動し、生涯にわたり学習する総合的な力	医療従事者として常に患者を念頭におき、生涯にわたり自主性を持って計画, 企画し, 学習を続けることができる	医療従事者として常に患者を念頭におき, 生涯にわたり自主性を持った学習を続けることができる	医療従事者として常に患者を念頭におき, 生涯にわたり学習ができる
	(2) チーム歯科医療としての歯科予防処置, 歯科診療補助, 歯科保健指導を行う基本としての総合的な力	各職種の役割を理解した上で, 必要なニーズを考え, 適切に働きかけながら医療を行うことができる	各職種の役割を理解した上で, 適切に働きかけながら医療を行うことができる	チームの一員であることを認識して行動することができる
	(3) 学校保健活動を行う基本としての総合的な力	学校保健活動を行う教育者として, 教職への使命感, 教育的愛情, 対人関係能力など教師としての資質や能力を十分に備えている	学校保健活動を行う教育者として, 教職への使命感, 教育的愛情, 対人関係能力など教師としての資質や能力を備えている	学校保健活動を行う教育者として, 教職への使命感, 教育的愛情, 対人関係能力など教師としての資質や能力を概ね備えている

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

専門教育を受けるための学問的基盤を作ると共に、人文科学、社会科学、語学などを幅広く学んで知識を習得し、知的好奇心と知的行動力を養う。さらにコミュニケーション能力や協調性、情報収集能力を身につけ、医療人としての基礎を築く。







口腔保健学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	人文科学や自然科学などの一般教養に関する知識・理解	大学教育基礎科目(◎) 情報科目(○) 領域科目(○) 健康スポーツ科目(○) 基盤科目(◎)	情報科目(○) 領域科目(○) 健康スポーツ科目(○) 基盤科目(◎)	平和科目(◎)					
	外国語と外国文化に関する知識・理解	外国語科目(◎)	外国語科目(◎)	外国語科目(◎)	外国語科目(◎)		実践専門英語演習(◎)		
	医の原則に関する知識・理解			チーム歯科医療学(◎)		医療倫理学(◎)			
	歯科医療従事者としての基本的な態度に関する知識・理解	口腔保健学概論(◎)		チーム歯科医療学(◎)					
	人の全身, 歯, 口腔の構造と機能に関する知識・理解		衛生学・公衆衛生学(◎)		社会福祉学(◎) 衛生行政(◎)	歯科衛生統計(◎) 健康社会学(◎)			
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進に関する知識・理解	系統解剖学(◎)	口腔解剖学(◎) 生理学・口腔生理学(◎)	微生物学・口腔微生物学(◎) 免疫学(◎) 基礎オーラルサイエンス実習(◎) 基礎栄養生化学(◎) 組織学・口腔組織学(◎) 口腔解剖学演習(◎)		総合医科学(◎)			
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する知識・理解			病理学・口腔病理学(◎)		総合医科学(◎)			
	歯科衛生士専門分野(歯科予防処置, 歯科診療補助, 歯科保健指導)に関する知識・理解		口腔保健学臨床概論(◎) 臨床歯科学概論(◎)	薬理学・歯科薬理学(◎) 口腔衛生学(◎) 修復系歯科学(◎) 補綴系歯科学(◎) 歯科材料学(◎) 口腔保健管理学実習I(◎) 看護学I(◎)	発達期系歯科学(◎) 保存系歯科学(◎) 外科系歯科学(◎) 歯科放射線学(◎) 歯科麻酔学(◎) 歯科医療管理学示説A(◎) 看護学II(◎)	発達期系歯科学(◎) 障害者歯科学(◎) 成人・高齢者歯科学(◎) 臨床心理学(◎) スポーツ酔歯科・顎関節症保健学(◎) 歯科医療管理学示説B(◎)	リハビリテーション概論(◎)		
	学校保健に関する知識・理解				口腔保健教育学(◎)	学校歯科保健教育論(◎) 小児科学(△) 精神科学(△) 精神保健学(△) 看護学III(△)			

口腔保健学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
能力・技能	歯科医療従事者としてコミュニケーションを行う能力・技能				対人コミュニケーション論(◎) 医療コミュニケーション基礎論(◎) 口腔保健行動学演習A(◎) 口腔保健行動学実習II(◎) 口腔保健管理学実習II	口腔保健行動学実習III(◎) 口腔保健行動学演習B(◎)	実践専門英語演習(◎)			
	情報を取捨選択し、論理的に整理し、発信する能力・技能			口腔解剖学演習(◎)	医療情報処理学(◎) 衛生学・口腔衛生学実習(◎)	歯科衛生統計(◎)	基礎看護学臨床実習(△)			
	歯科衛生士専門分野(歯科予防処置, 歯科診療補助, 歯科保健指導)を実践するために必要な能力と基本的技能			基礎オーラルサイエンス実習(◎) 基礎栄養生化学(◎)	衛生学・口腔衛生学実習(◎) 口腔保健行動学実習II(◎) チーム歯科医療学実習I(◎) スタートアップコースワーク(◎)	歯科医療管理学示説B(◎) 栄養指導学演習(◎) 口腔保健行動学実習III(◎) 口腔保健管理学実習III(◎) 摂食・嚥下障害学(◎)	口腔保健管理学実習IV(◎) 口腔保健衛生学臨床・臨地実習(◎) 口腔保健カウンセリング実習(◎) 口腔リハビリテーション工学実習(◎) チーム歯科医療学実習III(◎) 口腔保健衛生学臨床・臨地実習(◎) 専門コースワーク(◎)	口腔保健衛生学臨床・臨地実習(◎)		
	口腔保健学に関する問題発見と研究の計画立案・推進・結果分析・結果発表を行う能力と基本的技能			口腔保健行動学実習I(◎)				歯科臨床教育学(△)		
	学校保健に携わるために必要な知的能力と基本的技能				看護学演習(△)	看護概説(△) 看護学III(△)	健康相談(△) 学校保健演習(△)			
	総合的な力	歯科医療従事者として活動し、生涯にわたり学習する総合的な力						卒業研究(◎)	卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
		チーム歯科医療としての歯科予防処置, 歯科診療補助, 歯科保健指導を行う基本としての総合的な力				チーム歯科医療学実習I(◎)	チーム歯科医療学実習III(◎)	チーム歯科医療学実習III(◎) 口腔保健衛生学臨床・臨地実習(◎) 基礎看護学臨床実習(△) 学校保健演習(△)	口腔保健衛生学臨床・臨地実習(◎) 口腔保健管理学臨床実習(△)	
		学校保健活動を行う基本としての総合的な力								

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

## 口腔保健学プログラム担当教員リスト

氏名	職名	担当・講座名称	内線番号	メールアドレス
杉山 勝	教授	公衆口腔保健学	5958	masaru@hiroshima-u.ac.jp
重石 英生	講師	公衆口腔保健学	5945	shige@hiroshima-u.ac.jp
野宗 万喜	講師	公衆口腔保健学	5957	nosou@hiroshima-u.ac.jp
内藤 真理子	教授	口腔発達機能学		
鶴田 圭伊子	助教	口腔発達機能学	5795	turuda@hiroshima-u.ac.jp
西村 瑠美	助教	口腔発達機能学	5795	r-nishimura@hiroshima-u.ac.jp
竹本 俊伸	教授	口腔保健管理学	5796	takefn@hiroshima-u.ac.jp
松本 厚枝	講師	口腔保健管理学	5956	atu@hiroshima-u.ac.jp
仁井谷 善恵	助教	口腔保健管理学	5794	kakiura@hiroshima-u.ac.jp